

大阪有機化学工業株式会社	
2023年11月期 第2四半期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日時	2023年7月7日(金) 13:00~14:00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区大手町2-2-2; 野村証券 アーバンネット大手町ビル) *電話会議システム使用
当社出席者	・代表取締役社長 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「2023年11月期 第2四半期 決算説明会資料」 (2023年7月6日開示)

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	電子材料を中心に全体の方向感は。
A-1	1Qは当社にとって厳しい状況だったが、2Qは各セグメントでプラスになっている。 表示材料は回復してきているが力強さはない。 半導体材料においては、最先端のEUVは好調だが、ArFは半導体の需要減少の影響をうけて前年比で減少。1Qに対しては増加している。 3Q以降については、一般に秋口から回復するという見方もあったが、感覚としては3か月くらい遅れる感じである。従って、2Qの状況が今期中は続くともみている。
Q-2	大手レジストメーカーのTOBを受けた業界再編について
A-2	垂直統合の可能性もあるという記事は出ていたが、実際には現時点で当社には話はない。当社は25年にわたって半導体材料事業をやってきて、多くのお客様と信頼関係を築いてきているので、今まで通り、新しい微細加工の研究開発推進と当社のお客様への安定供給に努めていく。 当社はすべてのレジストメーカーとお付き合いしているので、他のお客様の御懸念を心配しているし、垂直統合によって今後の開発でシナジーがでるかどうかは不透明。
Q-3	EUV用レジストが好調であることの背景と3年後の拡大見通しについて
A-3	EUVは最先端ロジックに相当導入されてきている。また、現行のEUV材料の問題点も見えてきているので、それを改善するために共重合組成に添加剤的に加えるアクリル系材料の開発も加速してきたとみている。

	<p>当社 EUV 材料の伸び率が大きいのは、開発品が定常品になってきたこと及び開発品の数が増えてきたことによる。</p> <p>3 年後の拡大ポテンシャルについては、EUV 装置の台数で決まってくると思われるので、台数だけで考えれば 3 年後には 1.5 倍程度、レイヤーも含めるとそれ以上になると思う。</p>
Q-4	<p>下期に償却費が増えてくる見通しだが、営業利益を確保できるとする根拠は。</p>
A-4	<p>1Q の売上げが 68 億円、2Q が 74 億円、3Q 4Q を各 74~75 億円とすれば、売上増で償却費の分は回収できるとみている。</p> <p>製品群で言えば、化成品は海外が立ち上がってきている。レジストは弱含みだが、表示材料の回復を見込んでいる。化粧品材料は増加傾向が続いているし、子会社の特殊溶剤も需要が底堅い。</p>
Q-5	<p>EUV 材料開発において、外部の技術導入を考えているか。</p> <p>主骨格のスチレン系材料や PAG(光増感剤)の開発については。</p>
A-5	<p>3nm までは今の化学増幅型レジストが主流だと思うので、今のところ外部からの技術導入は考えていない。ただ、2nm 以下になってくると従来の技術で展開できるかどうかは不透明なので、いい機会があれば外部の技術導入を考えていくことも必要かと思う。特にメタルレジストやドライレジストについては注視していく。</p> <p>主骨格となるパラヒドロキシスチレン系材料は、当社の技術で競争力を持つことができないが、新規のスチレン系材料は検討している。</p> <p>PAG については、一般論になるが、当社が PAG を持っていれば製品群の強化にはなるが、一方で当社の本業であるアクリル材料の競争力がつくかというところではないと思っている。</p>
Q-6	<p>設備投資の進捗、増設に伴う人件費の増加、試験研究設備の売上げ寄与について。</p>
A-6	<p>設備投資の完工は当初予定より若干遅れているが、下期に償却費が増えてくる想定は変えていない。</p> <p>人件費増については、数年前から製品の改廃を進めてきて、人員配置を柔軟に変えながら補強をしてきた。また自動化も進めているので、売上が順調であれば人件費を吸収できるとみている。</p> <p>試験研究設備の売上寄与については、今後の高品質な開発品について、品質要求レベルの見極めがまだついていない。会社としては相当な売上を期待しているが、どれくらいのキャパシティになるかは、まだ申し上げられない。</p>
Q-7	<p>2Q で、売上増に対して利益が下振れている理由は。</p>
A-7	<p>主に電子材料事業で、在庫評価減が 2.6 億円あって原価増になった。</p> <p>また、機能化学品では、原燃料費の高騰や、化粧品原料で保湿剤用途の製品で価格競争があり値下げしたことも影響している。</p>

Q-8	ディスプレイ関係の新規用途の状況は。
A-8	ディスプレイ関係は、 μ LED、LED、新規フレキシブルディスプレイ、透明ディスプレイなどの材料開発を進めている。採用が決まって期待していた製品があったが、お客様の方でディスプレイの商品化自体を断念され中断した。今のところお話しできるものはないが、引き続き新規ディスプレイの材料開発は行っていく。

以上